

Tea Times

◆ お茶の水女子大学広報誌【ティータイムズ】

July 2005 13

- MESSAGE 新年度を迎えて…… 2
——新学長のご挨拶と新理事・新副学長の紹介
ワンガリ・マータイさんに本学名誉博士称号を授与 …… 3
湯浅年子記念特別研究員の帰国報告 …… 3
- NEWS 国立大学法人初の大学附属「いずみナーサリー」発足 …… 4
サイエンス & エデュケーションセンターが目指していること …… 5
現職保育者のためのキャリアアップ講座開設 …… 6
教授会にテレビ会議システム導入 …… 7
平成17年度科学研究補助金の採択率 …… 7
- PROJECT 2004年度アフガニスタン女性教員支援プロジェクト紹介 …… 8
- REPORT 読売・お茶大女性アカデミア21開催 …… 9
新しい奨学金制度スタート! …… 9
創立130周年記念事業「微音堂施設整備に関する募金」活動 …… 10
平成17年度 合格者出身地別一覧表/職員数 …… 11
- INFORMATION MEDIA CLIP/CALENDAR/編集後記 …… 12

国立大学法人 お茶の水女子大学



新年度を迎えて——新学長のご挨拶と新理事・新副学長の紹介



学長 郷 透子 (ごう みちこ)

お茶の水女子大学理学部卒業、名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了。コーネル大学化学科博士研究員、名古屋大学理学部生物学科教授、長浜バイオ大学生命情報科学部学部長を歴任。理学博士。

▶研究分野：生命情報学、予測生物学、生物物理学

新学長のご挨拶

本田和子前学長の後任を、この4月に引き継ぎました。43年前に巣立った母校に迎えていただいたことは、ほんとうに予期せぬ出来事でした。共学の大学で教鞭をとってきた経験を、法人化後のお茶大の運営に活かしていきたいと考えております。

お茶の水女子大学は、東京女子師範学校としてスタートしてから、今年は、節目となる130周年記念を迎えます。長い間、女性の最高の教育機関として、優れた女性を数多く世に送り出してきました。この伝統は現在でも色濃く生きており、文部科学省の審議会などの女性メンバーの多くが、お茶大関係者であることに、驚きを新たにしています。

法人化後のお茶大は、現代の世に必要とされる個性あふれる女子大として、その教育研究力と卒業生の残された知的資産、それに加えて附属学校園のもつ教育力を礎に、生まれ変わります。

今秋に予定されている130周年記念事業の折には、是非、冷暖房の完備した本学の講堂 徽音堂きいんどうをおたずねください。こころよりお待ちしております。

新理事・新副学長



和田 昭允 (わだ あきよし)

- ▶担当：学外理事
- ▶研究分野：生物物理

【私の好きな言葉】

「月を思うものは花を作り、年を思うものは木を植え、代を思うものは人を育てる／野口遵」



内田 伸子 (うちだ のぶこ)

- ▶担当：学内理事・副学長
総務機構長
- ▶研究分野：発達心理学、認知心理学

【ひとこと】

「本学キャンパスに住む全ての人が、幸いに自己実現していけるよう、人的・物的環境に目配り・心配りをしたいと考えています」



久保田 紀久枝 (くぼた きくえ)

- ▶担当：学内理事・副学長
教育機構長
- ▶研究分野：食品化学

【ひとこと】

「学生生活を支える縁の下の力持ちとして、機構全員で日々奮闘しています」



柴田 文明 (しばた ふみあき)

- ▶担当：学内理事・副学長
国際・研究機構長、センター部長
- ▶研究分野：理論物理学（量子非平衡統計力学、量子情報理論）

【ひとこと】

「世の中とあまり関係のない基礎研究をやっています。役に立つ、立たないは、自分で決めることではないようです」



羽入 佐和子 (はにゅう さわこ)

- ▶担当：副学長、学術・情報機構長
附属図書館長
- ▶研究分野：哲学

【ひとこと】

「大学の豊かな知的情報を丁寧に発信したいと考えています」

ワンガリ・マータイさんに本学名誉博士称号を授与

お茶の水女子大学では、平成17年2月19日、ワンガリ・マータイさん(ケニア共和国環境天然資源野生生物省副大臣)に本学で6人目となる名誉博士称号を授与しました。マータイさんは、1977年から27年間にわたり、アフリカでの植樹計画「グリーン・ベルト運動」の推進者です。この運動は、貧困に加え、環境破壊が進むアフリカで、仕事のない貧しい女性を集め、7本の植樹活動からスタートし、現在までにアフリカの20か国以上で約3000万本が植林されました。こうした功績により2004年にアフリカ女性初のノーベル平和賞を受賞しています。環境、人権、女性の権利に積極的に取り組むマータイさんの活動は、本学が推進する女性の役割モデルにふさわしいものです。

名誉博士称号の授与式では、「女性の大学であるお茶の水女子大学より、名誉博士称号を頂いたことは、私にとって意義のあることであり、大変感謝しております。また日本語に“モットタイナイ”という言葉があるのを知り感動しました。」と謝意を述べられました。(文責:編集委員会)



授与式におけるワンガリ・マータイさん

湯浅年子記念特別研究員の帰国報告

佐々木成江さん(本学大学院人間文化研究科遺伝カウンセリングコース講師)が第1回湯浅年子記念特別研究員として5か月間のフランス滞在を終え、昨年9月に帰国されました。これを受けて3月4日に帰国報告会が開催されましたが、佐々木さんの研究はルイ・パスツール大学(ストラスブール)において「亜硫酸酸化酵素遺伝子の発現制御」に関するものでした。

現在、アジア全体で飲料水として利用されている地下水のヒ素汚染が深刻な問題となっています。佐々木さんの研究は、この問題を安全で安価である生物学的なアプローチにより解決するための重要なステップとなるものです。「湯浅年子記念特別研究員」制度は、第二次世界大戦を挟む世界情勢の極めて厳しい時期、パリにあって国際的な活躍をした女性物理学者で、本学卒業生でもある湯浅年子博士の業績を記念して発足したものです。フランス政府より給費留学生として、6か月間の滞在費と往復の航空運賃が支給された他、滞仏中の研究費30万円が贈られました。写真はその報告会の際のもの。 (文責:永野肇 理学部)



帰国報告をする佐々木成江さん

国立大学法人初の大学附属「いずみナーサリー」発足



いずみナーサリー全景

国立大学法人として初めての附属学校部所属となる保育所「いずみナーサリー」が本年4月1日に装いを新たに発足しました。これに先立ち、3月25日に開所式、4月2日に、記念シンポジウム「大学の中で赤ちゃんが育つ—0歳からの発達と子育てを支えあう—」が開催されました。シンポジウムでは文部科学省男女共同参画学習課長清水明氏（5ページ参照）より祝辞をいただきました。本学での保育施設への取り組

みは2001年に授乳室を設置、2002年にいずみ保育所として附属幼稚園内の1室で保育を開始しました。このたびこれを発展的改組して附属学校部所属にし、いずみナーサリーと改称して再発足したものです。これに伴い施設も幼稚園園庭に隣接した建物に移動して改修し、3倍の広さになりました。その結果、保育所と幼稚園の子どもたちが自然に交流できるつくりとなりました。さらに、子育てをしながら学

ぶ学生支援の新たな仕組みとして大学院生対象の奨学金（保育料の半額）を準備しました。現在5名の子どもたちの保育のほか、月延べ約20名を時間預かりしています。

（文責：編集委員会）

いずみナーサリー
URL <http://www.ocha.ac.jp/izumi/>

いずみナーサリーの奨学金制度を利用して

飯田 悦子 人間文化研究科博士後期課程

私は、お茶の水女子大学にいくら感謝しても足りないという思いを持っています。大学院に行き、より専門的な知識や研究的視点を身につけたいという希望は持っていました。しかし一方で、現実化できないかもしれないという思いもありました。2002年4月に次男を出産し、無職だった私に、勉強するチャンスを与えてくれたのは、お茶の水女子大にいずみナーサリー（当時は保育所）が出来た事実です。キャリアを積むという視点からは、ブランク

になりかけていた私の子育て時期を、ナーサリーに次男を預け、大学院で勉強することで、有意義な時期に塗り替えることができました。さらに、今年度より、いずみに保育料を払っている場合には、保育料の半額を奨学金としていただけることとなり、経済面でのバックアップにも感謝しております。お茶の水女子大学は、子育て中の女性にも勉強する良質のチャンスを与えてくださる大学であると確信しています。



飯田悦子さんと2人の息子さん

大学の中で赤ちゃんが育つ

清水 明 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長

本年4月、お茶の水女子大学に、教職員・学生・大学院生の子どもを対象とした保育所「いずみナーサリー」が発足しました。

大学内保育所の設置は、(1)仕事・勉強と子育てとの両立の支援、(2)子育てに関係する教育・研究の質の向上、(3)学生、職員に対する、赤ちゃんとのふれあいや子育ての大事さと楽しさを知る機会の提供、といった効果を持つのみならず、(4)大学が子育てを応援する姿勢と決意を示すこと、でもあります。

行政だけでは少子化の流れを変えてい

くことはできません。大学や企業が子育てに優しい環境・風土づくりに取組む、「子どもを大切に作る社会づくり」が今求められています。

本保育所の設置は社会全体から見ればささやかな取組ですが、「大学の中で赤ちゃんが育つ」ことは普通のことであり、また、大学の使命・目標に照らし必要不可欠なものであるという考え方は、全ての大学、さらに全ての官庁、企業も見習うべき理念でしょう。



記念シンポジウムにおける郷学長、清水課長と内田理事

サイエンス&エデュケーション センターが目指していること

千葉 和義 サイエンス & エデュケーション センター

辞書で調べてみますと“教育”とは、「人を教えて知能をつけること」とあります。ただし、科学教育が「科学を教えて知能をつけること」であるならば、なにか、苦しいものを感じます。科学の楽しさは、学問的に「美しい」世界を味わうことにもありますが、その上で未知なる世界に一步踏み出し、新しいなにかを発見することが、大きな感動を生み出すのです。そして、その行為は「研究」と呼ばれています。

サイエンス&エデュケーションセンターは、不思議? 発見! 感動* を合い言葉に、科学分野における研究という作業を、大衆化させることを目的としています。川

柳をつくるように、日曜大工をするように、新しい料理を考案するように、科学研究を行いたい、そして科学文化を作りたいと考えているのです。

サイエンス & エデュケーション センター
URL <http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/>



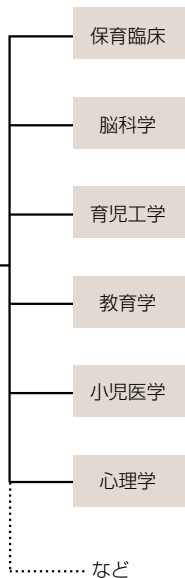
講義をする千葉和義センター長

現職保育者のためのキャリアアップ講座開設

◆特設講座スタート

今年5月に、アップリカ葛西株式会社の資金提供により、現職保育者（保育士及び幼稚園教諭）を主な対象とした、社会人向け講座が開設されました。この講座では、保育の質の向上、保育者の専門知識と技術のレベルアップを目指します。このため、保育臨床、脳科学、育児工学、教育学、小児医学、心理学など、新しい保育領域や各分野での最新の研究成果を学ぶことができるよう、カリキュラムが設定されています。授業は専任の榊原洋一（小児科医）、大戸美也子（保育学）の他、各分野の専門家が担当します。

現職保育者のための特設講座



◆社会人教育

授業は現職保育者が学ぶことができるよう、夜間、土曜日、集中講義で行われます。受講者は、科目等履修生として受講し、定められた試験に合格すれば、所定の単位が与えられます。必要とする基礎資格と単位を満たせば、大学評価・学位授与機構で「学士」を取得することも可能になります。

受講料は1学期6単位以上の履修者の場合は1学期6万円、6単位未満の場合は1単位につき1万円です。

■受講料

6単位以上	1学期	6万円
6単位未満	1単位につき1万円	

■平成17年度開講科目

前学期	障害児保育教育論Ⅰ
	育児・保育環境と工学Ⅰ
	子どもの病気とそのメカニズムⅠ
	保育実践研究Ⅰ
	保育臨床演習Ⅰ
	現代育児論Ⅰ
	保育者の情報学Ⅰ
	実践音楽表現Ⅰ
	保育と食育Ⅰ
	後学期
比較保育学Ⅰ	
乳幼児の発達と脳科学Ⅰ	
保育実践研究Ⅱ	
乳幼児行動の発達心理学Ⅰ	
絵本・おもちゃ・メディア研究Ⅰ	
子ども幸せ学の探求Ⅰ	

◆開講式

5月7日には開講式とオリエンテーションが行われました。平成17年度前学期には58名が登録しましたが、その半数以上は現職保育者です。1-3科目を履修している人が25名と最も多いですが、前学期開講の16科目全てを履修している人も4名います。また、本講座の科目は本学学生も受講でき、約30名が社会人とともに学んでいます。後学期受付は定員に余裕がある科目に限り受け付け、受付時期は8月下旬を予定しています。詳細は7月下旬頃明らかになる予定です。

(文責：編集委員会)



調印式における本田前学長と葛西健蔵アップリカ葛西(株)代表取締役会長



開講式とオリエンテーション

教授会にテレビ会議システム導入

お茶の水女子大学では学長の強いリーダーシップのもと、今年度より、各学部・センター部教授会においてテレビ会議システムを導入することが決定され、5月11日の教授会から実施いたしました。これは、4月に郷学長が就任されたことにより、新学長の方針を全教員に周知するとともに、今後の大学の運営方針と現状の正確な情報の伝達を行うことがねらいです。また、

教授会にかかる時間の節約も兼ねています。

3学部と1センター部の合計4つの教授会室と、学長室をテレビ会議システムで結び、映像と音声、パワーポイントを用いた報告資料を中継しました。学長室からの報告をうけて、4教授会室と双方向の意見のやり取りが今後期待されます。

(文責：編集委員会)



テレビ会議にのぞむ郷学長

平成17年度科学研究補助金の採択率

この度、文部科学省研究振興局学術研究助成課より、平成17年度の科学研究費補助金（以下、科研費）の配分状況が発表されました。

各国立大学法人では、いずこも運営費交付金の配分だけでは教育研究に支障をきたすため、外部資金の導入は必須で、科研費の獲得は重要と認識しています。このことから、法人化2年目の今年度は、本学でも取り組みが強化され、その結果申請件数は大幅に伸びて（175件 前年度比38%増）、そのうち49件が採択されました（前年度比75%増）。採択率は28.7%で、国立大学法人の中では第10位であり、全機関の中でも、大躍進し27位になりました。

また、新規採択と昨年度からの継続分の配分額の合計は、254,560千円（前年度比38%増）となり、郷学長より、教授会に対して大変喜ばしい情報として報告がありました。（文責：編集委員会）

■新規採択分における採択率

区分	採択率順位	申請件数	採択件数	採択率(%)
平成16年度	81	126	28	22.2
平成17年度	27	175	49	28.7

■新規採択+継続分における採択件数・配分額

(金額単位：千円)

区分	採択件数	配分額（直接経費）	配分額（間接経費）	配分額（合計）
平成16年度	97	219,438	6,990	226,428
平成17年度	116	246,700	7,860	254,560

PROJECT

国際交流プロジェクト



きなこクッキーを作る教員たち



本学キャンパスでゴミの分別方法を熱心に学ぶ教員たち



2004年度アフガニスタン女性教員支援プロジェクト紹介

お茶の水女子大学、津田女子大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学と、それぞれ100年以上の歴史をもつ5大学は、2002年5月にアフガニスタン女性教育のための「五女子大学コンソーシアム協定」を結びました。

その背景には、国籍・年齢を問わず、女性の成長を支援し、その資源能力の十全な開発を企てるという本学のミッションがあります。その協定では今後3年間にわたって、女子大学の教育経験を活用して特に戦禍を受けた教育面について、アフガニスタン女子教育支援事業を実施することになりました。本年はその3年目にあたり、最終プログラムとして、2005年1月11日から2月10日まで、アフガニスタン女性教員15人を招き、約32日間の研修が実施されました。

特にこのプログラムの誇るべき点は5大学および附属学校の教員のみならず、大学間の学生同士が連携して本プロジェクトに研修補助インターンとして積極的に参加し、アフガンウェブを運用していることです。5大学の学生レポーターがそれぞれ

の当番日の研修活動の記録をその日のうちにまとめ、翌朝10時には津田塾大のウェブへ掲載、5女子大学のキャンパスのコンピューターから読むことができました。

そのレポートから活動の一端を紹介します。1月31日は、本学附属高校・中学校で「食物と栄養と調理・食生活と衛生」の研修があり、脇 清香さん(本学2年)と桑原 遥さん(津田塾大2年)がレポートしています。日本の家庭科の教科書の紹介のあと、栄養価の高い「大豆」を学び、調理実習で「きなこクッキー」を作りました。調理後はもちろん昼食時においしくいただきました。なお本協定は本年5月で切れましたが、新たに3年間協定が更新されました。(文責：編集委員会)

読売・お茶大 女性アカデミア21開催

梅雨の晴れ間も幸運した6月25日(土)午後1時、第2回読売・お茶大・女性アカデミア21が本学共通講義棟2号館で開かれました。高校生も交えて、会場は定員328席を越えるのではと心配する満席状態でした。今回のテーマ『「女性と科学」を科学する一向き?不向き?利用者?否定者?推進者?』は意味深長です。

講師陣は「講演嫌いのあの方をどうやって陥落できたのか!」と感嘆を呼んだ毛利衛氏、トークのお相手は舌戦が期待される樋口恵子氏。続くパネルディスカッションは本学理学部卒で活躍する産業界の國井秀子氏と科学ライターの青山聖子氏、本学教員は室伏さきみ子氏と千葉和義氏の4人。女性が科学に弱いというのは本当か?会場からの活発な質問を交え熱い討論が続きました。内容は読売新聞紙上に掲載されましたが、詳細な記録はお茶の水学術事業会ブックレットに報告予定です。

(文責:編集委員会)



講演者の樋口恵子氏と毛利衛氏



4人のゲストによるパネルディスカッション

新しい奨学金制度スタート!

本学は、学ぶ意欲のある学生の夢の実現のために、質のよい高度な教育を提供するよう日々努力を重ねています。今年度からは、学費値上げに伴う経済的負担に配慮して、大学の厳しい財政状態の中からその一部を成績優秀者の奨学金に当てることにし、学部新生を対象とした奨学金制度を発表しました。また、子育てをしながら研究を続ける大学院生を支援する制度も同時に開始しました。



成績優秀者への奨学金授与式

前者が“成績優秀者奨学金制度”であり、今年度は学部学生として入学した学生の中から、とくに入学時の成績が優秀と認められた学生20人に対して、授業料相当額が贈られました。

後者が“大学院育児支援奨学金”です(4ページ下段の記事参照)。本学が設置している保育所(いずみナーサリー)を利用する大学院生に対して、子育てと研究を支援するために、保育料の半額を補助するというユニークな制度です。

(文責:編集委員会)

■平成17年度 合格者 出身地別一覽表

平成17年4月8日現在 (推薦・帰国子女は除く)

出身地		学部	文教育学部	理学部	生活科学部	計
北海道			1	1	2	4
東北	青森		1	1	2	4
	岩手		2	1	1	4
	宮城		3	2	0	5
	秋田		2	0	1	3
	山形		0	2	2	4
	福島		5	1	3	9
	計		13	7	9	29
関東	茨城		9	4	7	20
	栃木		4	8	9	21
	群馬		1	8	2	11
	埼玉		7	5	4	16
	千葉		9	7	6	22
	東京		37	45	28	110
	神奈川		21	16	5	42
	計		88	93	61	242
中部	新潟		6	2	6	14
	富山		11	3	3	17
	石川		2	0	1	3
	福井		2	1	1	4
	山梨		3	2	1	6
	長野		4	3	3	10
	岐阜		2	2	0	4
	静岡		11	6	4	21
	愛知		9	4	4	17
	計		50	23	23	96
近畿	三重		2	1	2	5
	滋賀		0	0	0	0
	京都		2	0	0	2
	大阪		0	1	1	2
	兵庫		7	1	1	9
	奈良		0	0	0	0
	和歌山		0	0	0	0
計		11	3	4	18	
中国	鳥取		4	1	2	7
	島根		2	0	0	2
	岡山		5	0	1	6
	広島		4	2	2	8
	山口		3	1	0	4
計		18	4	5	27	
四国	徳島		0	1	0	1
	香川		1	1	4	6
	愛媛		6	0	2	8
	高知		2	0	0	2
計		9	2	6	17	
九州・沖縄	福岡		12	1	8	21
	佐賀		2	0	0	2
	長崎		4	0	1	5
	熊本		2	1	0	3
	大分		5	2	2	9
	宮崎		3	0	3	6
	鹿児島		3	2	1	6
沖縄		0	0	0	0	
計		31	6	15	52	
外国・検定			1	0	0	1
総計			222	139	125	486

■職員数

平成17年5月1日現在

区分	教授	助教授	講師	助手	リサーチフェロー	アソシエイトフェロー	所属学校教諭	その他職員(含保育士)	合計
部署									
事務局								91	91
文教育学部	39	22	2	1					64
理学部	33	16	1	7	1				58
生活科学部	13	16	1	2					32
人間文化研究科	17	18	6	3	9				53
附属図書館								10	10
ジェンダー研究センター	2		1		1				4
生活環境研究センター	4								4
子ども発達教育研究センター	4	1	1		2				8
糖鎖科学研究教育センター									0
ライフワールド・ウオッチセンター	3	1							4
湾岸生物教育研究センター		2						1	3
比較日本学研究センター		1							1
サイエンス&エデュケーションセンター	1								1
総合情報処理センター		1	1	1	2			1	6
国際教育センター	1	3	1						5
開発途上国女子教育協力センター			2						2
ラジオアイソトープ実験センター								1	1
語学センター	1		2						3
学生支援センター			1						1
保健管理センター	1							1	2
学術・情報機構					1				1
附属小学校							28	2	30
附属中学校							25		25
附属高等学校							23		23
附属幼稚園							8		8
いすみナーサリー(保育士)								3	3
計	119	81	19	14	16	84	110		443

INFORMATION

MEDIA CLIP

クリップ情報 平成17年1月以降本学に関するおもな新聞記事一覧

- ★理系シンポジウム白書・室伏きみ子教授（毎日新聞 1月7日朝刊）
- ★まなび再考・耳塚寛明教授（日経新聞 1月8日朝刊 連載）
- ★模擬裁判・附属中学校（読売新聞・東京新聞1月27日夕刊、日経新聞1月28日朝刊）
- ★保育のプロ育成講座・寄付講座（産経新聞 2月4日朝刊）
- ★父の遺作、完成させる・藤原正彦教授（毎日新聞 年2月5日夕刊）
- ★小さいが重い一歩・マータイ名誉博士（読売新聞 2月6日朝刊）
- ★環境で初のノーベル賞他・マータイ名誉博士（毎日新聞 2月7日朝刊他）
- ★学びの時評・藤原正彦教授（読売新聞 2月28日朝刊）
- ★ひと・佐竹元吉教授（朝日新聞 3月4日夕刊）
- ★保育所続々変わる大学・いずみナーサリー（産経新聞 3月13日朝刊）
- ★国立大学の授業料・本学奨学金（読売新聞 4月4日朝刊）
- ★格差拡大究明へ新たな調査急務・耳塚寛明教授（産経新聞 4月23日朝刊）
- ★大学激動・教授会（日経新聞 4月24日朝刊）
- ★学内の保育所・いずみナーサリー（朝日新聞 5月14日朝刊）
- ★言葉を生きる・土屋賢二教授（読売新聞 5月7日夕刊 4週連載）
- ★キャンパル（毎日新聞 5月14日朝刊）
- ★学びの時報・藤原正彦教授（読売新聞 5月16日朝刊）
- ★子連れでも勉学に専念・いずみナーサリー（日経新聞 5月24日朝刊）
- ★キャリアの軌跡・郷 通子学長（日経新聞 6月6日夕刊）

【表紙の人】後藤あんり（文教育学部 人文科学科 2年生）

昨年の学園祭でユニークなお茶大生を選ぶコンテスト「Ocha☆1」が開かれ、「天気予報」のパフォーマンスでみごと優勝。アナウンサー志望、気象予報士を目指して勉強中。好きな言葉は「大丈夫、大丈夫。」

CALENDAR

大学の暦 平成17年4月～平成18年3月

4月1日(金)	ジェンダー学際研究専攻独立 (人間文化研究科博士後期課程)
4月2日(土)	いずみナーサリー開所式とシンポジウム
4月8日(金)	入学式
5月16日(月)	現職保育者のためのキャリアアップ講座授業開始
5月31日(火)	開学記念日
6月25日(土)	読売・お茶大女性アカデミア21
6月29日(水)・30日(木)	理学部3年次編入学試験
7月18日(月)	大学見学会
8月25日(木)・26日(金)	大学院博士前期課程入学試験
9月8日(木)・9日(金)	大学院博士後期課程入学試験
9月30日(金)	9月卒業式
11月12日(土)13日(日)	徽音祭(お茶の水女子大学学園祭)
11月26日(土)	お茶の水女子大学 世界物理年記念講演会
11月27日(日)	同上 小中学生向けイベント 会場:文京シビックセンター
11月下旬	お茶の水女子大学130周年記念事業
1月21日(土)22日(日)	大学入試センター試験
2月2日(木)3日(金)	博士前期課程入試
2月25日(土)26日(日)	学部入試(前期)私費外国人入試
3月2日(木)3日(金)	博士後期課程入試
3月11日(土)12日(日)	学部入試(後期)
3月23日(木)	卒業式

▶編集後記

リニューアルした「Tea Times」の感触はいかがでしょう？今年度第1号ですので、お茶大の顔をまですっかり伝え、次ぎに、動いている大学の今を、文京区から全国発信することに心がけました。次号は11月を予定しており、読者対象を特に卒業生・在學生に焦点をあてたいと思っています。各界で活躍している卒業生のユニークな情報などを是非、企画広報課までお知らせください。【編集長】

■お茶の水女子大学広報誌

Tea Times 13号
平成17年7月15日発行

■編集発行

国立大学法人 お茶の水女子大学 社会連携・広報推進室

■編集委員会

編集長 篠塚 英子 社会連携・広報推進室長
編集委員 柴坂 寿子 西村 光範 河野 隆 高橋 苗々子
発行責任者 学術・情報機構長 羽入 佐和子

■問い合わせ先

国立大学法人 お茶の水女子大学 企画広報課
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
TEL 03-5978-5105 FAX 03-5978-5890
E-mail info@cc.ocha.ac.jp URL http://www.ocha.ac.jp
Tea Timesは本学ホームページでいつでもお読みになれます。

制作/株式会社プリモパッソ